

腸管出血性大腸菌（O157）感染症患者の発生について

1 概要

8月8日、出雲市内の医療機関から出雲保健所に腸管出血性大腸菌（O157）感染症患者の届出がありました。現在、出雲及び益田保健所が患者及び接触者について健康調査及び行動調査を実施しています。

2 患者

益田市内在住の60代 女性

症 状： 腹痛、水様性下痢、血便、急性腎不全、溶血性尿毒症症候群（HUS）

経 過： 7月24日 腹痛、血便

25日 益田市内のA医療機関及びB医療機関を受診

29日 B医療機関を再受診後入院

8月 2日 出雲市内のC医療機関へ転院

8日 検査結果が判明し、C医療機関から出雲保健所へ

腸管出血性大腸菌（O157）感染症患者の届出

現在患者は入院中ですが、回復傾向です。

溶血性尿毒症症候群（HUS）

腸管出血性大腸菌感染の重症合併症の一つであり、子どもと高齢者に起こりやすい。

3 対応状況

- ・患者及び接触者の健康調査（検便等）と行動調査等
- ・手洗いなど、二次感染予防の指導
- ・家庭のトイレ等の消毒指導

【県民の皆様へ】

腸管出血性大腸菌感染症が発生しています。各家庭及び食品調理施設においては、次の事項に注意して下さい。

(1) 手洗いの励行：人から人への感染を防ぐためには、手洗いが最も大切です。

トイレの後や調理前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

(2) 家庭において、食肉やレバー等の内臓は十分に加熱して食べましょう。飲食店での牛生レバーの提供は禁止されています。

(3) 焼肉をするときは、生肉用の箸と取り箸を使い分けましょう。

(4) 食品を扱う際の注意：中心部まで、75℃1分間以上の十分な加熱をするとともに、調理した食品はすぐ食べるようにしましょう。

また、腸管出血性大腸菌に感染した場合、重症化させないことが大切です。

腹痛、下痢、血便等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診しましょう。

【参考】県内の腸管出血性大腸菌感染症患者及び無症状病原体保有者の発生状況

発生年	血清型			
	O157	O26	その他	合計
2020年	9(3)	0	3(1)	12(4)
2021年	6(2)	0	7(6)	13(8)
2022年	18(7)	1	1	20(7)
2023年	74(10)	1	5(3)	80(13)
2024年	*5(3)	1(1)	0	6(4)

*本件の1名を含みます。()は無症状病原体保有者を再掲

プライバシーを尊重した対応をお願いします。